

### 第3回 律令国家の崩壊と摂関政治

#### §1 奈良時代

律令国家のしくみが整えられるとともに、政治の中心となる都も整備された。710年中国（唐）の都にならって奈良に大きな都がつくられ、それを平城京という。後に平安京（今の京都）に都が移るまでの時代を奈良時代という。

律令国家の重要な原則の一つが公地公民制度であり、土地の私有は認められていなかった。723年、田を増やすために、自分で開墾した土地は三代に限り私有を認めること（「三世一身法」）が始まった。しかし、三代目には土地を返さなければならない。すると、三代目には田畑が荒れてしまった。そのため、743年には、土地の完全な私有が認められるようになった（「墾田永年私財法」）。その結果、有力な貴族や寺社は農民を使って私有地を広げていった。そのような有力者の私有地を荘園と呼ぶ。荘園の拡大によって、公地公民を原則とする律令制度は成り立たなくなっていった。

#### §2 平安時代前期の政治

8世紀後半ころから貴族や僧の対立が続いたため、天皇中心の政治を取り戻すために都を奈良から京都に移した。新しい都を平安京といい、平安京が政治の中心であった時代を平安時代とよぶ。

平安時代になると貴族の中でも藤原氏が大きく力をのばし、天皇の代わりに政治の権力を握るようになった。藤原氏は一族の娘を天皇の後とし、生まれた子を天皇にすることによって政治の実権を得た。10世紀中ごろには常に藤原氏が摂政・関白の役職に任命され、この時代の藤原氏一族による政治を摂関政治という。

摂関政治が盛んな10世紀ころには、日本の文化も大きな変化をみせた。中国文化の影響が少なくなり、日本の自然や生活にあった文化が生みだされた。それを国風文化という。漢字を変形したかな文字（カタカナ、ひらがな）が生まれ、かな文字を使った女性による文学作品も登場した。

また、10世紀以降には、地方で有力な農民や豪族が国司に対抗したり、土地をめぐって互いに争うようになった。なかでも、武芸を専門にする者は武士とよばれ、源氏や平氏などの大きな力をもった武士団が、中央の貴族と手をむすんで勢力を広げるようになった。

### 第3回 **律令国家**の崩壊と**摂関政治**

#### §1 奈良時代

律令国家のしくみが整えられるとともに、政治の中心となる都も整備された。710年中国(唐)の都にならって奈良に大きな都がつくられ、それを平城京という。後に平安京(今の京都)に都が移るまでの時代を奈良時代という。

律令国家の重要な原則の一つが**公地公民制度**であり、土地の私有は認められていなかった。723年、田を増やすために、自分で開墾した土地は三代に限り私有を認めること(「**三世一身法**」)が始まった。しかし、三代目には土地を返さなければならぬ。すると、三代目には田畑が荒れてしまった。そのため、743年には、土地の完全な私有が認められるようになった(「**墾田永年私財法**」)。その結果、有力な貴族や寺社は農民を使って私有地を広げていった。そのような有力者の私有地を荘園と呼ぶ。荘園の拡大によって、公地公民を原則とする律令制度は成り立たなくなっていく。

#### §2 平安時代前期の政治

8世紀後半ころから貴族や僧の対立が続いたため、天皇中心の政治を取り戻すために都を奈良から京都に移した。新しい都を平安京といい、平安京が政治の中心であった時代を平安時代とよぶ。

平安時代になると貴族の中でも藤原氏が大きく力をのばし、天皇の代わりに政治の権力を握るようになった。藤原氏は一族の娘を天皇の后とし、生まれた子を天皇にすることによって政治の実権を得た。10世紀中ごろには常に藤原氏が摂政・関白の役職に任命され、この時代の藤原氏一族による政治を**摂関政治**という。

摂関政治が盛んな10世紀ころには、日本の文化も大きな変化をみせた。中国文化の影響が少なくなり、日本の自然や生活にあった文化が生みだされた。それを**国風文化**という。漢字を變形したかな文字(カタカナ、ひらがな)が生まれ、かな文字を使った女性による文学作品も登場した。

また、10世紀以降には、地方で有力な農民や豪族が**国司**に対抗したり、土地をめぐる互いに争うようになった。なかでも、武芸を専門にする者は武士とよばれ、**源氏**や**平氏**などの大きな力をもった武士団が、中央の貴族と手を組んで勢力を広げるようになった。

### Part 3: Collapse of the Ritsuryo State and the Regal Government

#### §1 the Nara period

At the same time that the structure of the Ritsuryo state was established, the capital, the political center of the country, was also developed. In 710, a large capital was built in Nara, following the example of the capital of China (Tang Dynasty), and was called Heijo-kyo (Heijo-kyo Capital). The period until the capital was later moved to Heian-kyo (present-day Kyoto) is called the Nara period.

One of the important principles of the Ritsuryo State was the public-land civic system(公地公民制 “Kochi Komin Sei”), and private ownership of land was not permitted. However, in order to increase the number of rice paddies, private ownership of land cultivated by the landowners themselves was permitted only for three generations (三世一身法"Sanse Isshin no Hou"). However, the fields became desolate in the third generation because the land had to be returned, so full private ownership of the land was permitted (墾田永年私財法"Konden Eien Shizai Hou" (Law of Eternal Private Property of the Land)). As a result, powerful aristocrats and temples and shrines used farmers to expand their private land holdings. The private lands of such influential people were called manors "Sho-en", and it can be said that the expansion of manors made the Ritsuryo system untenable.

#### §2 Politics in the Early Heian Period

Around the latter half of the 8th century, the capital was moved from Nara to Kyoto in order to restore the emperor-centered government, due to continued conflicts between nobles and priests. The new capital was called Heian-kyo, and the period when Heian-kyo was the political center of Japan is called the Heian period.

During the Heian period, the Fujiwara clan rose to power among the aristocrats and came to hold political power in place of the emperor. In the middle of the 10th century, the Fujiwara were always appointed as chief regent(摂政 “Sessyo”) and advisor of the Emperor(関白 “Kanpaku”), and this period was known as the regal government(摂関政治 “Sekkan-seiji”).

During the 10th century, when the regal government was flourishing, Japanese culture underwent a major change. The influence of Chinese culture decreased, and

a culture that suited the nature and lifestyle of Japan was born. This culture is called "kokufu (国風)" culture. Kana characters (katakana and hiragana), a variant of kanji, were created, and literary works by women using kana characters appeared. From the 10th century onward, influential local peasants and powerful families began to compete with the provincial governors (国司 "Kokushi") and to fight each other over land. Among them, those who specialized in the martial arts were called "samurai," and powerful warrior clans such as the Minamoto and Taira clans began to join forces with the central aristocracy to expand their power.

### 第3回 律令国家的瓦解与摄关政治（摂関政治）

#### §1 奈良时代

随着律令国家制度的确立，作为政治中心的首都也被建立起来。（公元）710年，以奈良为首都，建造了一个仿照中国（唐朝）都城的大型城市，这个城市被称为平城京。后来迁都平安京（今京都）之前的时代都被称为奈良时代。

公地公民制度作为律令国家的重要制度之一，不承认土地私有权。但是，为了增加田地的数量，于公元723年开始允许农民享有新开发土地的三代以内（《三世一身法》的“三世（第一代到第三代）”）的私有权。然而，因为到第三代期满时土地必须返还公家，导致田地「第三代时」被开垦者弃荒，因此土地的完全私有权在公元743年也得到了承认（《垦田永年私财法》《墾田永年私財法》）。在这样的结果下，使有权势的贵族和寺庙、神社得以利用农民来大肆垦殖扩大私有领土。这些权势者的私有土地被称为庄园，可以说，庄园的肆意扩张使以公地公民（大化改新的主要内容之一，不允许土地和人民私有。即土地，人民归国所有。）为原则的律令制度变得难以存续。

#### §2 平安时代初期的政治

大约从8世纪后半期开始，由于贵族和僧侣之间甚至相同派系内部的持续对立，为恢复以天皇为中心的政治体制，便将都城从奈良迁至京都。新都城被称为平安京，平安京作为政治中心的时代即被称为平安时代。

在平安时代，藤原氏的势力在贵族中极度扩大，并代替天皇掌握政治权利。藤原氏又通过使同族成员的女子成为皇后，让他们的孩子成为天皇，获得了政治上的实权。10世纪中期，藤原氏一直被任命为摄政和关白，这一时期由藤原氏一族实行的统治被称为摄关政治。

在摄关政治强盛的10世纪，日本文化也发生了巨大的变化。减少了中国文化的影响，产生了适合日本的自然和生活方式的文化。这被称为“国风文化（国風文化）”。同时，诞生了从汉字变形而来的假名文字（片假名、平假名），并且使用假名文字的女性创作的文学作品也随之出现。

10世纪以后，地方上有势力的农民和世家大族开始与国司（地方的行政官僚）抗衡，为争夺土地而相互争斗。这些人中，专门从事武力的人被称为武士，像源氏和平氏这样拥有强大势力的武士集团，便与中央贵族联合起来，以扩大他们的势力。